

屋外木材面の厚膜型透明保護工法

セブンコートN

5 工程工法

施工要領書

2025 年 3 月改訂版



Seven Chemical
株式会社 セブンケミカル

目次

1. 5工程工法の標準工程.....	2
2. 適応下地	2
3. 施工フローチャート.....	3
4. 注意事項	4
5. 施工上の注意	4
6. 使用材料一覧	6

1. セブンコート N 5 工程工法の標準工程

工程		使用材料	希釈 (重量%)	塗付量 (kg/m ²)	工程時間 (時間)	施工方法
1	下塗り	セブンコート N シーラー	無希釈	0.1 ~0.2	3~24	中毛ウールローラー・刷毛
—	充填処理 (該当箇所)	セブンコート N	無希釈	—	3~168	刷毛・ヘラ等
2	中塗り(1)		水 0~3	0.3 ~0.5	3~168	細目砂骨ローラー (中塗りは気泡混入しない よう事前攪拌)
3	中塗り(2)		水 0~3	0.3	16~168	細目砂骨ローラー又は 中毛ウールローラー・刷毛
4	上塗り (艶有・半艶・ 艶消)	セブンコート N トップ Hyb2	無希釈	0.08 ~0.12	2~168	中毛ウールローラー・刷毛
5	上塗り (艶有・半艶・ 艶消)		無希釈	0.08 ~0.12	24~最終 養生	中毛ウールローラー・刷毛

※ 下地が難燃剤処理木材の場合、および金属汚染(鉄汚染)が発生する恐れのある場合は、施工をご遠慮ください。その際は事前に弊社の技術部までご相談ください。

※ 中塗りは2回合わせた塗付け量が 0.6~0.8 kg/m²になるように調整してください。中塗り2回目を 0.3 kg/m²より少なく塗付けたい場合は、その分、中塗り1回目で多く塗付けてください。

2. 適応下地

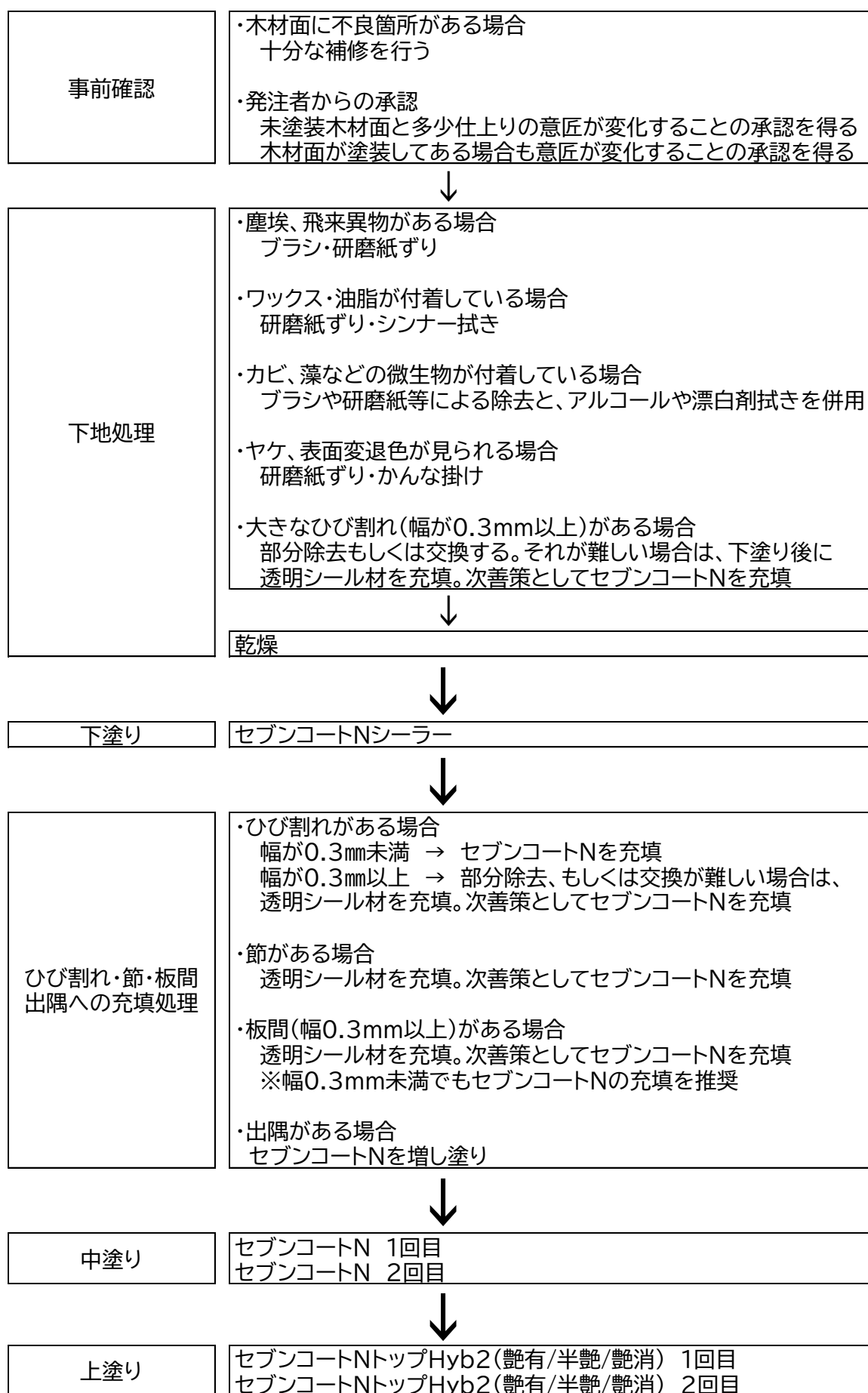
木材

垂直面

※ セブンコート N 工法は、垂直面のみに適用します。

※ 天端や、あらわしの木口部分がある場合は、垂直面以外であっても同様に施工してください。

3. 施工フローチャート



4. 注意事項

- (1) 外気温が 5℃以下及び 35℃以上の場合は施工を避ける。湿度 85%RH 以上の場合も施工を避ける。
- (2) 施工前から施工後にかけての乾燥硬化の過程で雨・結露・霧・雪・霜等が予想される場合は施工を避ける。
- (3) 強風の時は塗材の飛散被害・塗付けムラ等の支障をきたすため、十分風養生対策を行うか施工を避ける。
- (4) 花壇や擁壁など裏面からの水分供給が予想される部分への施工は避ける。
- (5) 地面からの水分の影響を避けるため接地面から 10 cm程度は施工を避ける。
- (6) 材料は、風雨・直射日光を避け 5℃以上の冷暗所で保管する。
- (7) 材料については SDS を確認する。

5. 施工上の注意

施工前の下地の洗浄不足、塗膜内への異物の混入、気泡を巻き込んだままでの表層硬化、液溜まりなどにより、意匠性を損なってしまう恐れがあります。下記に注意して施工してください。

(1) 事前確認

- ① 木材面に不良箇所があれば、事前に十分な補修を行う。
- ② セブンコート N 仕上げにより、未塗装木材面と多少仕上りの意匠が変化するので、予め発注者から承認を得る。
- ③ 木材面が塗装してある場合、仕上り意匠が変化する場合もあるので、予め発注者から承認を得る。

(2) 下地処理

- ① 塵埃、飛来異物等は、ブラシや研磨紙ずり等により除去する。
- ② ワックス、油脂等が表面に付着している場合は、研磨紙ずり、シンナー拭き等により除去する。その他の人為的汚れについても同様に除去する。
- ③ 微生物(黴、藻等)の汚れは、ブラシや研磨紙等による除去と、アルコールや漂白剤拭きを併用し、十分に除去する。
- ④ ヤケ、表面変退色が見られる場合は、研磨紙ずりやかんな掛け等でフレッシュな表面にする。
- ⑤ 大きなひび割れ(0.3mm 以上)がある場合、部分除去もしくは交換する。それが難しい場合は下記(4)の①に記載の方法で処理する。

(3) 下塗り

- ① 下地が十分乾燥していることを確認後、下塗り工程を行う。
- ② セブンコートNシーラーは、ハンドミキサー等で均一に混合し、無希釈で塗装する。
- ③ 中毛ウールローラー塗りにより塗り残しや塗り継ぎが生じないよう均一に所定量を塗付ける。

(4) ひび割れ・節・板間・出隅への充填処理

- ① ひび割れ箇所は、幅が 0.3 mm未満で小さい場合は、下塗り後、セブンコート N を用いて充填処理する。0.3 mm以上の大きなひび割れで部分除去もしくは交換が難しい場合は、下塗り後、発注者からの事前承認を得て透明シール材(例としてオート化学工業製オートン・クリオネオ)を充填する。それが難しい場合は、次善の策として、透明シール材の代わりにセブンコート N を充填する。
- ② 木肌に節のある場合は、下塗り後、発注者からの事前承認を得て透明シール材(例としてオート化学工業製オートン・クリオネオ)を充填する。それが難しい場合は次善の策として、透明シール材の代わりにセブンコート N を充填する。
- ③ 板間に 0.3 mm以上の大きな隙間がある場合は、下塗り後、発注者からの事前承認を得て透明シール材(例としてオート化学工業製オートン・クリオネオ)を充填する。それが難しい場合は次善の策とし

て、透明シール材の代わりにセブンコート N を充填する。また、板間の隙間が 0.3mm 未満の場合でも、下塗り後、中塗りをういて充填処理することを推奨する。

- ④ 出隅部分は下塗りを施工後にセブンコート N を増し塗りしてください。

(5)中塗り

- ① 下塗り面を指触確認し、下塗りの乾燥(目安として 3 時間以上)後、中塗り工程を行う。
- ② セブンコートNを希釈する場合 1～3%(重量比)で水希釈し、均一に混合する。混合方法は、気泡が混入しないよう低速攪拌機または攪拌棒などで静かに攪拌する(通常の高速ハンドミキサーは泡混入が多く、使用不適とする)。
- ③ 中塗り1回目は、細目砂骨ローラーにセブンコート N をたっぷり含ませ、気泡が混入しないよう、配り塗り、仕上げ塗りし均一に仕上げる(木目の方向に沿って仕上げ塗りする)。
- ④ なお、何度もしごき塗りすると不均一な仕上がりとなり、仕上げ不良になる。
- ⑤ セブンコート N1回目の塗り面の乾燥硬化(目安として3時間以上)後、透明になってから細目砂骨ローラー又は中毛ウールローラー、刷毛を用いて2回目のセブンコート N の所定量を気泡が混入しないよう丁寧に仕上げる。
- ⑥ 中塗りは2回合わせた塗付け量が $0.6 \sim 0.8 \text{ kg/m}^2$ になるように調整する。

※ 高温時の施工や塗継ぎ箇所で気泡混入による白濁する可能性があるため、施工時の下地の温度や塗重ねの時間差に気を付けて施工してください。

(6)上塗り

- ① 中塗り塗装翌日以降、乳白色から透明になり乾燥硬化を確認後、上塗り工程を行う。
- ② セブンコート N トップ Hyb2 基剤は、ハンドミキサー等を使用して予め均一に混合する。上塗り材の半艶では、艶消し剤等が沈降して分離状態になっている場合もあるので、ハンドミキサー等で缶の底部まで十分混合する。
- ③ セブンコート N トップ Hyb2 は、2 液型の塗り材になる。基剤／硬化剤を10:1(重量比)とし、ハンドミキサー等を使用して均一に混合する。
- ④ 中毛ウールローラーや刷毛により、塗り残し、塗り継ぎの生じないよう木目方向に均一に塗る。なお、中塗りも含めて透明仕上げのため、塗り残し、塗りむらのないよう十分注意する。
- ⑤ セブンコート N トップ Hyb2、1回目の塗り面の乾燥(目安として2時間以上)後、中毛ウールローラーを用いて2回目のセブンコート N トップ Hyb2 を1回目同様に仕上げる。
- ⑥ 仕上げ面は、十分乾燥硬化させるよう、24 時間以上乾燥養生する。

※ 小分けする場合、予め十分に攪拌してから計量し小分けしてください。上記の理由から、少量使用の場合は、3.3kg セットをご利用ください。

※ セブンコート N 工法の中塗りは、透明な塗膜のため、上塗りの際、塗り残しが発生しやすいので十分ご注意ください。塗り残し箇所は経年で汚れの付着があります。

(7)その他

- ① 各工程の塗材塗装後すぐに塗面を養生シート等で密閉すると、養生シートと塗膜が接着し剥がれなくなることがあるため、養生シート等で密閉しないように注意する。
- ② 居室等の内装で使用する場合、塗料扱い時や塗装時には換気・通気に十分注意する。
- ③ セブンコート N 工法塗装後に運搬する場合は、離型紙等で塗付面をカバーし、他のものに接着しないように養生する。
- ④ 既存のシーリング材打設箇所には、塗装しないようにする。テープ養生やビニール養生等をする。

6. 使用材料一覧

製 品 名	容 量	荷 姿	備 考
セブンコート N シーラー (水性特殊アクリル樹脂)	15kg	石油缶	水性 1 液下塗り
	4kg	ポリ角缶	
セブンコート N (水性アクリルシリコン樹脂)	14kg	石油缶	水性1液中塗り
	4kg	ポリ丸缶	
セブンコート N トップ Hyb2 艶有・半艶・艶消 (水性無機有機ハイブリッド樹脂)	11kg セット	石油缶	水性2液上塗り 基剤:硬化剤 10:1 (重量比)
	3.3kg セット	石油缶	



株式会社 セブンケミカル

東京都港区芝公園 2-4-1 芝パークビル A 館 12F

TEL 03(6809)2597 FAX 03(6809)2598

<https://www.seven-chemical.co.jp>